

特別活動授業実践研究部

I 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫

～豊かな関わり合いを通して、自発的・自治的な活動のできる児童生徒の育成～

II 研究主題について

前年度より取り組んできた研究主題「豊かな関わり合いを通して、自発的・自治的な活動のできる児童生徒の育成」を継続していくとともに、今年度全体の研究主題である「主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫」について、研究を進めた。

本研究部では、研究主題に迫る特別活動、主に学級活動（1）における、「主体的・対話的で深い学び」とは何かその実現に向けてどのような手立てが講じられるかを考えた。

特別活動における「主体的・対話的で深い学び」とは、小学校学習指導要領には、次のように示されている。小学校学習指導要領第6章第3の1の（1）には「特別活動の各活動及び学校行事を見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己実現に資するよう、児童が集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担うようにすることを重視すること。」とある。

さらに特別活動指導資料では、特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現について以下のように定義している。

主体的学びの実現とは

「学級や学校における集団活動を通して、生活上の諸課題を自分たちで見いだしたり、解決できるようにしたりすること。」

対話的学びの実現とは

「特別活動が全ての内容で重視している「話し合い活動」を通して、自己の考え方を働的に広げ深めていくこと。」

深い学びの実現とは

「特別活動が重視している「実践」を単に行動の場面と狭く捉えるのではなく、課題の設定から振り返りまでの一連の活動とし、そのプロセスで教科等の学習で身に付けた知識や技能を働かせ、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に関わる議題や題材に取り組むよう意図的・計画的に指導していくようにすること。」

・特別活動指導資料 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)より

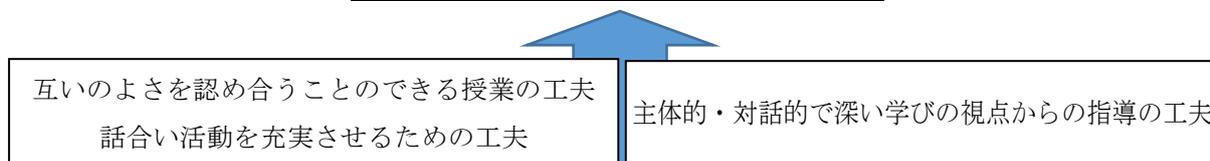
実際の授業場面でのこれらの学びの実現を目指し、「豊かな関わり合いを通して、自発的・自治的な活動のできる児童生徒」の具体的な「目指す児童生徒の姿」について検討した。そして、研究テーマである「主体的・対話的で深い学びの視点からの指導の工夫」に基づき、児童生徒の実態に則した授業づくりの研究に取り組むこととした。

III 研究の内容

1 研究の方向性

豊かな関わり合いを通して、自発的・自治的な活動のできる児童生徒の育成

目指す児童生徒の姿



手立て						
事前指導			学級会			
議題選定表の活用	事前から実践までの見通しを持つための工夫	提案理由、決まっていることの共有化	学級会ノートの活用	学級会グッズの活用	折り合いをつける工夫	終末の教師の話による話し合い活動の価値づけ

児童生徒の実態

2 目指す児童生徒の姿

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
事前	<ul style="list-style-type: none"> 提案理由に沿ってノートに意見が書ける。 計画委員の児童生徒が事前からの活動をスムーズに行えるよう見通しを持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に出ている意見を共有している。 意見の内容を学級全体で理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級に必要な議題を考え、学級や児童が必要感を持つことができる議題選定ができる。
学級会	<ul style="list-style-type: none"> 手を挙げて発言している。 友達の意見をよく聞いている。 提案理由に沿った意見が言える。 小グループの話し合いに参加している。 計画委員が自分たちで進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 小グループの話し合いなどで理解し合おうとしている。 友達の意見を聞いて折り合いをつけている。 友達の意見を受けて意見を言っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りで自分や友達のよさに気づき、自分が成長したことに気付いている。 友達の理由を聞き、よりよい意見を選択し、まとめる意見が言える。 黒板記録の児童生徒が短冊を使って黒板を整理している。
実践	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割に積極的に取り組んでいる。 友達の新しい良さに気付いている。 計画的に実践・準備に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いのよさを認め合うことができている。 友達と協力して、係の活動ができる。 友達に励ましや、肯定的な声かけをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返った内容を次の議題に生かしている。 前回振り返った内容が、活動に生かされている。 提案理由に挙げた目標が実現されている。 提案理由に挙げた目標が実現されなかった場合は、次の方策を考え、よりよい学級づくりに貢献しようとしている。

3 児童・生徒の実態調査 *小学6年生4学級、中学1年生1学級で実施

質問内容	実践前
① 学級会の授業は好きですか。	76%
② クラスがよりよくなるために進んで議題を見つけること（提案すること）ができますか。	63%
③ 計画委員として、自分たちで活動計画を立てることができますか。	68%
④ 提案理由に沿って、発表することができますか。	78%
⑤ 相手の立場を考えて、発表を聞くことができますか。	94%
⑥ 折り合いをつけるためにまとめる意見を言うことができますか。	54%

学級会を好きと答えた児童生徒が76%いることから、学級会を楽しんでいる児童生徒が多いと考えられる。また、話し合い活動において提案理由に沿って発表することや相手の意見を聞くことができると答えた児童生徒が多いことから、積極的に授業に参加していると思われる。一方で、議題を見付けることや活動計画を立てることができると答えた児童生徒が少ないことから、クラスの課題の見付け方や話し合いに向けての準備の方法がわからない児童生徒が多いと考える。

4 手立て

(1) 議題選定の基準の設定

① 議題選定表の活用

児童から出てきた議題を選定する際、どのように行うとよいか観点を示す。学級会で取り扱う議題としてふさわしいものか、クラスの成長がより見込めるものや優先順位が高いものを選定するための指針にできるようにする。また、それをクラス全体に共有できるようにし、より自分事として捉えることができるようにする。

選定の視点 出された議題	○今すぐ解決しなければならない問題か	○学校の全員に関係のある問題か	○自分たちの力で解決できる問題か	○工夫を要しない問題か	○学校のくらしがよくなる問題か	解決方法 ○議題にする ○係へ ○係りの会 ○先生 ○委員会

(2) 事前から実践までの見通しを持つための工夫

① 学級会カレンダーの活用

議題選定から実践までの見通しが持てるよう、「学級会カレンダー」を活用し、児童がカレンダーを見て自発的・計画的に活動できるようにする。

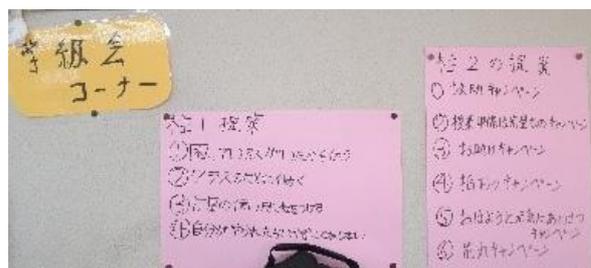
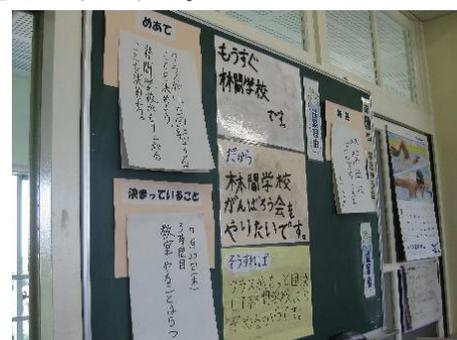
② 計画委員の活動の流れの掲示

計画委員の活動の流れを掲示し、主体的に活動できるようにする。

(3) 提案理由、決まっていることの共有化

① 提案理由の3段階構成

提案理由の構成、現状、課題、実践後のクラスの姿の3段階構成で提案者から出された提案理由を周知するために、事前にどんな思いで提案をしたかを話してもらい、現状のクラスの様子から実践後のクラスの姿をイメージできる事前の活動を行う。提案理由の中で大切なキーワードを「赤で書く」「大きく書く」「線を引く」などして見やすくすることで、提案理由に沿った発言をする意識を高めさせる。



② アンケートの実施

提案理由を練り上げる際に「クラスの

みんなに聞いてみたい」という児童の思いから議題や現状についてのアンケートを実施し、クラスの課題を全員が考え、提案理由に必要感を与える記述を入れた。

(4) 学級会ノートの活用

① 事前の意見の整理・共有

話し合いを円滑に進めるために学級会ノートを活用する。学級会ノートを活用することにより、意見を短冊に事前に書いて掲示しておくことで、質問をあらかじめすることができ、意見を共有することができる。また、教師が事前に意見を把握し、赤を入れることで児童の発言を促すことができる。

(5) 学級会グッズの活用

① 短冊による思考の整理

短冊を色ごとに分け、黒板を見やすく整理する。全体にあらかじめ短冊の使い方を指導しておき、スムーズに使えることができるようにしておく。同じようなものは並べて置くなど、児童の考えを整理する。



② 注目マークの活用

比べ合いやまとめる時に、どの項目のことを言っているのか全員が分かるように、注目マークを使って、見て分かるようにする。

(6) 折り合いをつける工夫

① 折り合いのつけ方の方法の提示

集団決定するにあたり、少人数意見に耳を傾けたり、折り合いをつけたりするために、折り合いをつける方法を掲示し、それを見て「自分もよくてみんなもよい」ということを集団決定できるようにする。



② 思考ツールの活用

話し合いの中心を分かりやすくし、それぞれの意見のよいところや違いが分かりやすいように「思考ツール」を利用することで、折り合いをつけた意見を考えやすくする。

③ 意見の理由の可視化

意見の理由を短冊に書いて黒板に貼ることで、提案理由に沿った意見、付加価値の高い意見を選び、建設的な話し合いができるようにする。

(7) 終末の教師の話による話し合い活動の価値づけ

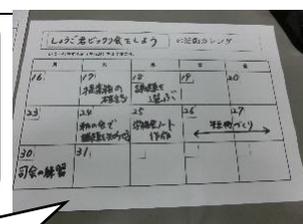
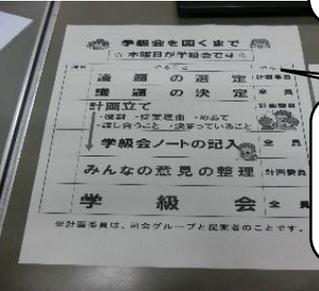
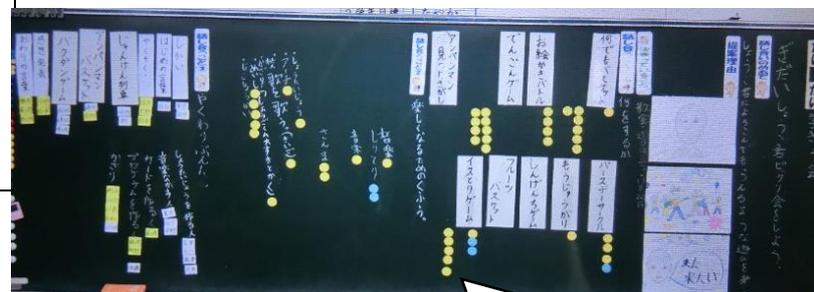
① 終末の教師の話 確認シートの活用

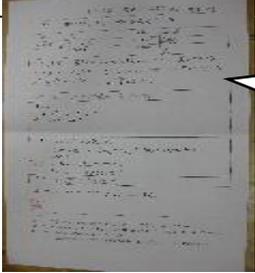
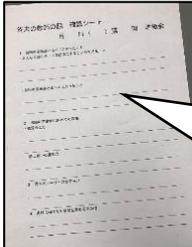
学級会の最後に、よかったことや課題、計画委員へのねぎらいなどを行い、実践への意欲、次回の話し合いへの意欲を高めるようにする。その際に「終末の教師の話 確認シート」を活用することで、適切な振り返りを行うことができるようにする。

終末の教師の話 確認シート	
月 日 () 第 回 学級会	
1 前回の学級会と比べてよかったこと	みんなが話し合って集団決定することができたこと
・前回の学級会と比べてよかったこと	

IV 授業実践

1 平成29年10月31日 所沢市立泉小学校 第3学年学級活動 佐藤 杏純

第6回 学級会活動計画書 平成29年10月31日(火) 5時間目		
議題	『〇〇君ビックリ会』をしよう！	
提案理由	3年生になって初めて〇〇君が来ます。〇〇君に喜んでもらえるようなビックリ会をすると3年1組にきてよかったと思ってもらえるから提案しました。	
話合いのめあて	〇〇君に喜んでもらえるような遊びを考えよう。	
決まっていること	① 日時：11月22日(水) 1校時 ② 場所：3年1組教室 ③ 準備は休み時間に行う。 ④ 遊びは3つ	
時間	話合いの進行	
5分	1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の説明 5 めあての確認 6 決まっていることの確認	<p>手立てと効果</p> <p>手立て(3)①提案理由の3段階構成 →提案理由に沿って意見を述べる事ができた。</p> 
13分	7 話し合い	<p>手立て(2)①学級会カレンダーの活用 →計画委員が自主性を持って話し合うまでの取組を行う事ができた。</p> <p>手立て(2)②計画委員の活動の流れの掲示 →学級会について理解し、自分たちだけの力で学級会を開く事ができた。</p> 
17分	柱① 何をするか 柱② 喜んでもらうための工夫	
5分	柱③ 役割分担	
5分	8 ノート記録から決まったことの確認 9 振り返り 10 先生の話 11 終わりの言葉	<p>手立て(5)①短冊による思考の整理・手立て(4)①事前の意見の整理・共有 →児童の意見の共通理解を図ることで、効率のよい話合いにつながった。また、事前に自分の考えをまとめることができ、全員が発表することができた。</p> 

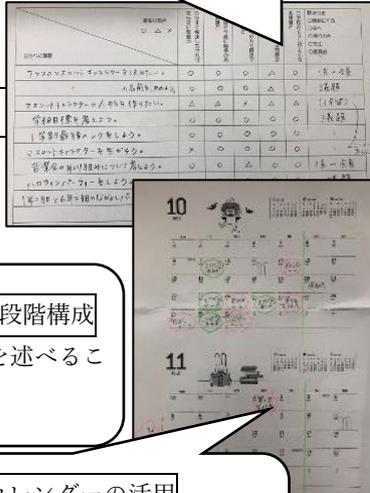
第5回 学級会活動計画書 平成29年11月29日(水) 6時間目		
議題	『思いやり向上キャンペーン』を考えよう	
提案理由	学級目標達成状況アンケートの結果を見ると、「思いやりがあるクラス」という部分の達成状況があまりよくないので、7組最後の日に「思いやりのあるクラス」にできるように、何か取組をしたほうがいいと考えた。	
時間	話し合いの進行	手立てと効果
5分	1 はじめの言葉 2 議長団の紹介 3 議題の確認 4 提案理由	 <p>手立て(4)①事前の意見の整理・共有 手立て(5)①短冊による思考の整理 →事前に学級会ノートに書かれた意見を短冊に書くことで、話し合いの時間の確保できた。</p>
25分 15分	5 話し合い 柱① 何をやるか 柱② 評価方法を考えよう	 <p>手立て(4)①事前の意見の整理・共有 →自分の意見を書き、意欲的に参加することができた。</p> <p>手立て(4)①事前の意見の整理・共有 →学級会ノートを事前に確認し、学級会コーナーに出された意見を共有化し、話し合いの時間を確保することができた。</p> 
5分	6 決まったことの確認 7 話し合いの振り返り 8 先生の話 9 終わりの言葉	 <p>手立て(5)①短冊による思考の整理 →短冊を使うことで、比べ合う時に、移動させることができ、比較しやすくなった。</p>  <p>手立て(7)①終末の教師の話 確認シートの活用 →適切な振り返りができ、生徒のこれからの実践や次回の学級会への意欲につながった。</p>

3 平成30年7月12日 所沢市立三ヶ島小学校 第6学年学級活動 鹿島 暉

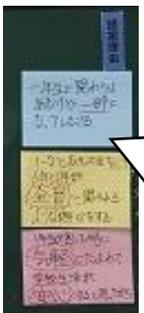
第3回 学級会活動計画書 平成30年7月12日(木) 5時間目		
議題		『修学旅行がんばろう会』をしよう
提案理由		修学旅行が楽しみな人と不安な人がいます。不安な理由は「友だちと仲良くできるか」「東照宮とか難しそう」などがあります。だから、修学旅行が「がんばろう会」をしたいです。そうすれば、不安な気持ちがなくなって、修学旅行が最高の思い出になると思うからです。
話し合いのめあて		みんなが仲良くなり、日光のことを知ることができる遊びの工夫を考えよう。
決まっていること		①日時：7月19日(木) 3時間目 ②場所：教室 ③やることは2つ ④決まっている係 司会 プログラム はじめの言葉 おわりの言葉
時間	話し合いの進行	手立てと効果
5分	1 はじめの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認 4 提案理由の説明 5 めあての確認 6 決まっていることの確認	<p>・提案理由を周知させるための工夫</p>  <p>手立て(3)②アンケートの実施 修学旅行での楽しみや不安をアンケートし、結果を提案理由に入れた。 →議題の必然性や、提案理由の周知につながった。</p>  <p>手立て(3)①提案理由の3段階構成 →提案理由が周知され、ゴールが共有できた。</p>
15分 15分 5分	7 話し合い 柱① 何をやるか 柱② どんな工夫ができるか 柱③ どんな係が必要か	<p>・子どもの意見の理由</p> <p>「日光のことを知ることができるように日光に関するゲームをやれば不安な人がいなくなると思うからです。」</p> <p>「このゲームをやれば日光のことも知ることができし、みんなとも仲良くなれると思うからです。」</p> <p>→提案理由を意識した理由を言う児童が増えた。</p>   
5分	8 決まった事の確認 9 振り返り 10 先生の話 11 終わりの言葉	<p>手立て(4)①事前の意見の整理・共有 →児童の意見をあらかじめ把握できた。赤を入れて発言を促した。</p> <p>手立て(5)①短冊による思考の整理 →同じ意見どうしを近くに置くなど思考の整理ができた</p>

第6回 学級会活動計画書 平成30年11月1日(木) 5時間目	
議題	『1年2組と6年2組のなかよしパーティー』をしよう
提案理由	1年生と関わりはあるけれど一部だけなので、1-2と遊ぶ会をして6年生と1年生が全員と関われるような遊びをすることで、1年生が困ったときに気軽に頼れて、学校生活が安心すると思ったから。
話合いのめあて	自主的に提案理由にそって発表しよう。
決まっていること	① 日時：11月26日(月) ② 2校時～大いちょうタイム ③ 場所：大いちょうホール ④ 準備は1時間。(あとは休み時間に行う) 当日のパーティーは1時間。
時間	話合いの進行
5分	1 はじめの言葉 2 司会グループの紹介 3 議題の確認 4 提案理由の説明 5 めあての確認 6 決まっていることの確認
20分	7 話合い
10分	柱① 何をやるか
5分	柱② どんな工夫ができるか
5分	柱③ どんな係が必要か
5分	8 黒板書記から決まった事の確認
	9 ノート書記から話合いの気付き
	10 振り返り
	11 先生の話
	12 終わりの言葉

手立て(1)①議題選定表の活用
 →学級の現状にふさわしい議題を選定することができた。



手立て(3)①提案理由の3段階構成
 →提案理由に沿って意見を述べることができた。



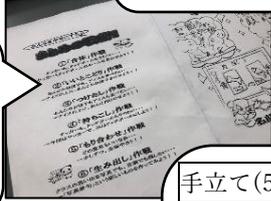
手立て(2)①学級会カレンダーの活用
 →児童一人一人が見通しを持って自発的に実践までの取組を行うことができた。



手立て(5)②注目マークの活用
 →話題にしていることを意識させ、効率のよい話合いにつながった。



手立て(6)①折り合いの付け方の方法の提示
 →自分もみんなもよいと思うことを集団決定できた。



手立て(5)①短冊による思考の整理
 →児童の意見の共通理解を図ることで、効率のよい話合いにつながった。
 意見をまとめる時間のときに意見を整理しやすく、折り合いのつけた意見が出しやすかった。
 話題にしていることを意識させ、効率のよい話合いにつながった。



手立て(7)①終末の教師の話 確認シートの活用
 →適切な振り返りができ、児童のこれからの実践や次回の学級会への意欲につながった。



第6回 学級会活動計画書 平成30年11月9日(金)5時間目	
議題	「卒業アルバムのクラスページの内容を決めよう」
提案理由	<p>楽しく過ごしてきた6年3組もあと残り4ヶ月になりました。これまででクラスは、仲良くする仲間も増え、行事などに協力して取り組むことができるようになりました。</p> <p>12月には卒業に向けて六年間の思い出として、卒業文集を作ります。そこでクラスのページをみんなで考えて作りたいと思います。</p> <p>みんなでクラスページを考えることで、みんなが楽しいで笑顔になれる、よりよい思い出が残るクラスページが作れると思い、提案しました。</p>
話し合いのめあて	みんなが楽しいで笑顔になれる、よりよい思い出が残る、卒業アルバムのクラスページを作ろう
決まっていること	<p>①表紙をつくる</p> <p>②プロフィールをつくる</p> <p>③先生からのメッセージをつくる</p> <p>⑤ 4つぐらいきめる</p>
時間	話し合いの進行
5分	<p>1 はじめの言葉</p> <p>2 計画委員の紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>4 提案理由の説明</p> <p>5 めあての確認</p> <p>6 決まっていることの確認</p>
8分	7 話し合い
17分	<p>柱① どんな内容にするか</p> <p>柱② 表紙に入れたいもの</p> <p>柱③ どんな係が必要か</p>
10分	
	<p>1 AのよいところとBのよいところを合わせる(合体・融合)</p> 
	<p>手立て(1)①議題選定表の活用</p> <p>→提案された議題を知らせ全員確認することができた。議題の必要性や、優先順位を明確にしたことで必要感を持って話し合うことができた。話し合いを苦手としている児童も意見を考えることができた。</p>
	<p>手立て(2)①学級会カレンダーの活用</p> <p>→計画委員が自主性を持って話し合うまでの取組を行うことができた。</p>
	<p>手立て(3)①提案理由の3段階構成</p> <p>→提案理由に沿って意見を述べるすることができた。</p>
	<p>手立て(4)①事前の意見の整理・共有</p> <p>→事前から掲示を工夫しておくことで、議題に対する問題意識を高めることができた。学級活動コーナーを見ながら、自分の考えをもつように助言しノートを書くことができた。また、計画委員が学級会ノートに書かれた内容を事前に確認しておくことで、話し合いの見通しを持つことができた他、用意した短冊を掲示することで、質問など事前に意見交換をすることができ、本時の話し合いがよりスムーズにできた。</p>
	<p>手立て(6)①折り合いのつけ方の方法の提示・②思考ツールの活用・③意見の理由の可視化</p> <p>→意見のよさを見付けることや、多くの意見を生かし合う意識を持ちながら話し合うことで、お互いの意見のよさを合わせた、考えを出し合うことができた。</p> <p>表紙にのせる絵が「思い出の絵」と「トロフィー」の2つで意見が分かれたときには、両方のよいところを合わせて、両方を描ける大きさで描くという意見にまとめることができた。</p>
5分	<p>8 ノート記録から決まったことの確認</p> <p>9 振り返り</p> <p>10 先生の話</p> <p>11 終わりの言葉</p>
	<p>手立て(7)終末の教師の話 確認シートの活用</p> <p>→話し合いの振り返りでは、「何がよかったのか」をしっかりと判断してよりよく評価し、次の活動に生かすことができるよう教師の話をした。互いのよさやがんばりを認め合ったりすることにつながり、振り返りの個人のノートにも学びを実感として表れていた。</p>

V 成果と課題

1 アンケート結果

- (1) 「学級会の授業を好き」と答えている児童生徒が増えていることから、各教科等で育成した資質・能力を、実践的な活動を通して、社会生活に生きて働く汎用的な力として育成されていることが期待できる。
- (2) 「議題を提案することができる」と答えた児童生徒が少ない。議題例を示すと

質問内容	実践前	実践後
(1)好き	76%	84%
(2)議題を見つける	63%	53%
(3)活動計画を立てる	68%	82%
(4)提案理由に沿って発表	78%	79%
(5)相手の意見を聞く	94%	90%
(6)まとめる意見	54%	48%

- ともに、学級の課題を探す機会を意図的に設ける必要がある。また、児童生徒の気づきを、議題につなげるように助言することも大切である。
- (3) 学級活動の話合いを積み重ねることによって、計画委員の活動を理解し、「自分たちで活動計画を立てることができる」という自信につながっていることがわかる。
- (4) 「まとめる意見を言える」と答えた児童生徒が実践前・実践後とともに低い。一方で、「相手の話をしっかり聞ける」と答えている児童生徒が、90%を越えていることから、自分もよく、相手もよい実践を模索している児童生徒が多いと考えられる。

2 実践から

(1) 成果

議題選定表を活用し、学級により必要な議題を選び、意欲的に学級会を計画することができるようになった。さらに、学級会カレンダーを見ながら、実践までを見通して一連の活動に取り組むことができた。提案理由の3段階構成を意識したことで、児童生徒に提案理由が周知され、より理由を意識して話合いに臨む児童生徒が増えた。その結果、話合いの質が高まった。短冊などの学級会グッズを使い、黒板で児童の思考を見やすく整理したり、注目マークで話合いの焦点化したりすることができた。終末に児童生徒へ話すことが整理された教師の話確認シートを活用したことで、児童生徒の話合い活動に対する価値づけを行い、実践への意欲と次回への課題意識を醸成することができた。

(2) 課題

折り合いをつける方法は提示したが、実際に折り合いをつける意見を言うことは難しかった。学級会を重ねる中で、教師が適切に助言し、折り合いをつける経験を重ね、合意形成をする力を育てていくことが肝要である。今回は、事前の指導と学級会における手立てを考え実践した。今後は事後の活動について児童生徒がより自発的、自治的に取り組めるような研究を進めていきたい。

参考文献

- ・文部科学省(2017) 小学校学習指導要領
- ・文部科学省(2017) 小学校学習指導要領解説 特別活動編
- ・文部科学省(2017) 中学校学習指導要領解説 特別活動編
- ・国立教育政策研究所(2015) 特別活動指導資料 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)
- ・国立教育政策研究所(2018) 特別活動指導資料 みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)